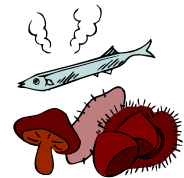


BPT (バイオマスプロジェクトチーム)だより No.5 1

http://www.pref.chiba.lg.jp/svozoku/e_ichihai/bio/biotop.htm



平成21年11月30日(月)
バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

1. 市町村との連携

市原市との意見交換

10月5日(月)と11月19日(木)に市原市を訪問し、市内のバイオマス関連企業の動向などについて、意見交換を行いました。

同市では、今年2月のバイオマスタウン構想公表後、協議会の結成などについて現在本格的に取り組んでいるところです。今後も協力してまいります。



市原市バイオマス担当の皆さん

大多喜町との意見交換

平成19年にバイオマスタウン構想を公表後、BDF製造に着手した大多喜町を10月7日(水)に訪問し、最近の稼働状況などについて伺いました。

施設は順調に稼働していますが、BDFは冬場に性状が変わり使用しづらくなるとのことで、通年の利用ができないか検討しているそうです。また、地元のいすみ鉄道とは広報などの面でも協力関係を築いていました。

施設の外観



大多喜駅に停車するいすみ鉄道



第3回南房総市地産地消推進協議会(10月22日(木)開催)

今年3月にバイオマスタウン構想を公表している南房総市では、同協議会を設置して、地産地消を進めており、当課もその取組みに参画しています。現在「南房総市地産地消運動2009」を進めており、来年2月には同市白浜フローラルホールで「南房総市地産地消キックオフイベント」が実施されます。当課もバイオマスのほか、レジ袋削減、食べ残し削減など資源循環型社会構築について出展する予定です。

(南房総市HP) <http://civil.mboso-etoko.jp/chisan-chisho/>

また、最終ページの枠内記事「バイオマスタウンより」もご覧ください。

2. 関係機関との連携

第3回地域LCA協議委員会

11月11日(水)(独)産業技術総合研究所の社会とLCA研究グループとの地域LCA協議委員会が開催され、同研究所より「食品残さの飼料化およびその利用システムの評価」の研究に関する進捗が報告されました。また、同様に委員会に参画している芝浦工業大学講師より、「地域バイオマス資源循環の価値と費用の評価」に関する研究の進捗が報告され、今後のアンケート調査の実施等について意見交換がなされました。今後も協力して事業を進めていきます。

3. 普及啓発活動

エコフィード説明会（於：千葉市総合保健医療センター）

10月8日（木）当チームが推進している食品残さ等の飼料化（エコフィード）について理解を得ることを目的として、飲食業者などが集まる講習会の前に説明を行いました。



木質プラスチック製品
展示の様子

安房地域「木の日」イベント出展



安房地域では、毎年10月8日「木の日」の前後に地域の人々が実際に木に触れる機会を設け、緑化推進事業の一環として「緑の募金」運動が行われており、今年は10月10日（土）ロックシティ館山ショッピングセンターで行われました。

当チームも参加し、木質プラスチック製品の普及活動を行いました。



普及活動の様子

第4回3R推進全国大会 ちばし環境展への出展



10月16日（金）～18日（日）の3日間、千葉市ポートアリーナで行われた同展に、資源循環推進課によるレジ袋削減、食べ残し削減の取組みなどと共に、当チームもバイオマスの分野で出展しました。

同大会は、環境省が参画する大規模なイベントであり、多数の来場者に対し木質プラスチック製品などバイオマス利活用をアピールすることができました。



ステージの様子

サンキューだよ！全員集合！参加（於：東京おもちゃ美術館）

10月28日（水）サンキューグリーンマーク登録企業・団体異業種セミナーにおいて、当チームも千葉県産木質プラスチック製品の普及活動を行いました。「サンキューグリーンスタイルマーク」は、国産材利用を通じて地球温暖化防止に貢献することを目的に、2005年に始まった「木づかい運動」で制定されました。木質プラスチックが木づかいの更なる木づかいであることをアピールしました。



会場のカタログに掲載

バイオマス利用研究特論 講義（於：東京大学本郷キャンパス）

10月30日（金）に、東京大学大学院農学生命科学研究科にて、「千葉県におけるバイオマス利活用」というテーマで当チームが大学院生、職員を対象に講義を行いました。



講義の様子

ドリームフェスティバル出展（於：千葉市中央公園）

11月8日（日）国体開催1年前イベント「ドリームフェスティバル」に参加し、当チームからは木質プラスチック製品の出展を行いました。また、木質プラスチック製「チーバくんペンダント」色塗り体験を実施し、好評を博しました。

今後も国体と協力しながら啓発活動を行っていきます。



出展の様子

若松高校出前講演会（於：県立若松高校）

11月12日（木）同校1年生の総合学習の時間において、農事組合法人と郷園の阿部氏と共同で、バイオマス全般、県の環境分野での取り組み等について説明しました。

今後、生徒さんたちはそれぞれのグループに分かれ、環境に関するテーマで研究結果をまとめていくそうです。

（若松高校HP）<http://www.chiba-c.ed.jp/chb-wakamatsu-h/>

ECOひいきフェスティバル（11月23日（月）山武市にて開催）

当チームが参画するNPO活動推進課所管の地域活性化プラットフォーム事業の山武郡市中間報告会を兼ねた、山武市主催のフェスティバルに参加し、木質プラスチック製「チーバくんペンダント」色塗り体験を実施しました。

当課で進めている『ちばエコスタイル』表記のペンダントも使用し、CO₂削減などに対する関心を高めることができました。

ちばレジ袋削減エコスタイルとちば食べきりエコスタイルを合わせた当課事業のキャッチコピー



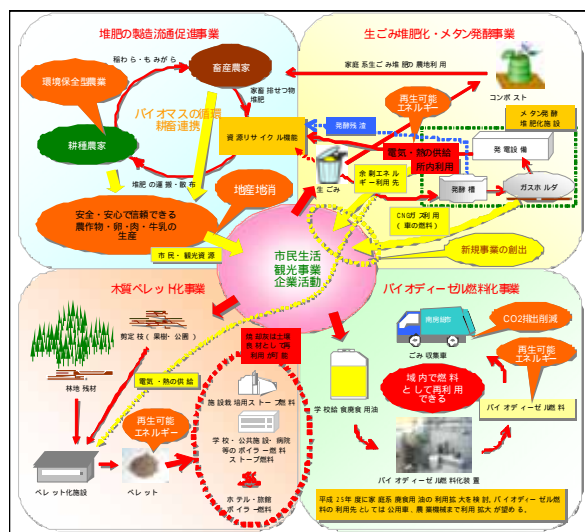
色塗りの様子

～バイオマスタウンより～「南房総市バイオマスタウン構想の策定」

本市では、「ひと・ゆめ・みらい 地域で創る魅力の郷 南房総」の将来像のもと、地域の資源を活力にするまちづくり、心豊かに安心して暮らせるまちづくり、ともに考え行動するまちづくりを進めています。

地域の基幹的産業である第1次産業を活性化させるためには、「資源循環を機軸とした農林水産業」の見直しと、市の施策である「地産地消」による流通の改善が必要と考え、その方策の一つとしてバイオマスタウン構想を策定しました。

地域に賦存するバイオマス資源を有機質堆肥やエネルギーなどとして活用することで、環境にやさしい農林水産業を推進し、生産された安全・安心な農林水産物を地域に流通させることで、資源循環の促進や、地産地消の推進を図ります。第1次産業の魅力が増すことにより、他産業との連携による相乗効果や市民生活の向上につながることを期待しています。



（こちらの記事は、南房総市より寄稿いただきました。）